

第6学年「てつがく創造活動」学習活動案

授業者 倉次 麻衣

2月16日（金） プレイルーム 9:00～9:40

1 活動名 ふり返って考えよう（対話）

2 活動について

2学期いっぱいまで全活動が終了したプロジェクト型活動について、ふり返りながら対話をする。3年生から4年間、様々な形やテーマを変えて取り組んできたプロジェクト型活動は、多くの子どもたちにとって楽しい時間となっていた。協働しながら「探究」をする時間であるが、一方で、側から見て休み時間との違いは何かを問われる活動でもある。ふり返りについては、毎回活動後に各プロジェクトや個人で行っている。しかし、活動の内容同様に個差があり、全体を俯瞰しているふり返りもあれば、活動の記録に過ぎないものもあった。活動が終了した今、子どもたちにとって、プロジェクト型活動の学びとは一体何であったのか、対話を通して考えたい。

評価部会の今年度の重点課題は、「自覚的な評価活動」である。「子どもが“てつがくする”ことを通して、「学びとしての評価」を行う。そして、将来にわたり、自らの学びの評価者であり続けるために、このような評価活動に価値を感じ、自覚的に行う姿を目指す。」（要項P.28）とあるように、3月で小学校を卒業していく子どもたちが、これからの学びに生かせるように、具体例を元にししながら俯瞰的にふり返ること、対話を通して友達の考えや学びを聞くことで、自覚できていなかった価値や学びに気づくことをねらいとして本題材を設定した。

3 学習活動計画（15時間目／全17時間）

第1次 今年度のてつがく対話 …2時間（1学期）

第2次 居心地のよいクラスって …3時間（ Ⅱ ）

第3次 本当の自分とは …6時間（2学期）

第4次 ふり返って考えよう …本時5/6時間（3学期）

（①なぜ嫌な勉強をしなければいけないの？ ②対話が深まるってどういうこと？ ③～⑥未定）

4 本時の活動について

（1）本時のねらい

- ・3年生からの活動を振り返って、自分（自分たち）にとってのプロジェクト型活動（てつがく創造活動）の意義や価値について対話を通して考える。

（2）予想される本時の展開

主な学習活動と子どもの姿	留意点
1 前時の対話の振り返りから本時の話題に入る（15分） 振り返りの中で多かった内容、もしくは問いについて、書いた人の意見から対話をスタートする。本時の話題について、まずは一回り意見を聞いていく。	・金魚鉢型（クラスの人数を半分に分けて二重の円で座る）で対話を行う。
2 前後のメンバーを入れ替えてもう一回りする（15分） 前半の話を踏まえて、前半の意見の感想や意見を話していく。	・対話の具体的な内容については、前時のふり返りをもとに決める。（当日の指導案に記載）
3 後半の意見を聞いた感想を中心に、フリーに対話する（10分） 全体の話の流れで、皆が共通に挙げているキーワードなどがあれば共有する。	・40分授業のため、各自のふり返りは後日行う。